

ワークショップの事例（防府市）

◎地域別津波避難マップづくりワークショップ

「地域別津波避難計画」及び「地域別津波避難行動支援マップ」の作成にあたり、以下の理由によりワークショップの手法を用いた。

- ①津波浸水想定ではどこが危険な区域で、どのように安全な避難先へ避難するのかなど、それぞれの地域の詳しい情報を最もよく知っている地域住民自身の参加を得て計画づくりを進めることで、より実効性の高い計画を策定することができるため。
- ②ワークショップに参加した住民が津波避難計画づくりを通して学んだことをそれぞれの地域に持ち帰り、地域の自主防災リーダーとして自らの地域の「防災力」の向上に寄与していただけると期待できるため。

開催状況

津波避難対象地域（12地域、81自治会）

参加者：自治会長、自主防災組織の防災担当者、防災士、消防団員等

	第1回 ワークショップ（全体説明会）	第2回 ワークショップ
開催日	2015年7～9月	2015年11～12月
時間	2時間程度	1時間程度
場所	防府市役所1号館3階南北会議室 (野島地域は、防府市野島漁村センター大会議室)	
回数	7回	6回
テーマ	『津波避難対策を考える』 ・防府市における津波対策の重要性を確認 ・津波避難目標地点、避難場所、避難経路の選定	『津波避難のまとめ』 ・ワークショップのまとめ ・津波避難の課題を考える
内容	①開会あいさつ、防府市における津波避難対策の説明（10分） ②ワークショップの説明（10分） ③防府市で想定される地震津波被害について有識者による説明（40分） ↓以降は班別でワーク ④避難目標地点、避難場所、避難経路の選定（40分） ⑤ワーク結果を班毎で発表（15分） ⑥次回WSの説明、閉会あいさつ（5分）	①ワークショップ概要説明（5分） ②第1回ワークショップの振り返り（10分） ③津波避難行動支援マップの確認（20分） ・津波避難目標地点の確認 ・避難場所の確認 ・避難経路の確認 ・危険箇所の確認 ③避難行動の課題の確認（20分） ・避難における課題について ・課題の解決に向けた取組み ④閉会あいさつ（5分）

・第1回ワークショップ

①津波避難対策を考える

有識者による津波の被害想定や地震津波避難に関する基礎的な知識の説明を行った後、図上訓練用の図面等を使用して避難目標地点等の意見収集を行った。浸水予想区域を確認し、地域の避難目標地点、避難場所、避難経路の選定を行った。

日時	対象地区	参加者
平成27年7月27日(月)	富海地域、向島地域	約33名
平成27年8月3日(月)	勝間地域、華浦地域、牟礼地域	約29名
平成27年8月4日(木)	新田地域、中関地域	約34名
平成27年8月7日(金)	大道地域、右田地域	約36名
平成27年8月10日(月)	西浦地域、華城地域	約29名
平成27年9月5日(土)	野島地域	約11名
平成27年10月1日(木)	上記で欠席だった対象自治会	約9名

・第2回ワークショップ

②津波避難のまとめ

第1回目のワークショップの結果を反映させた地図をもとに地区全体の避難経路・要注意点箇所の確認を行った。また避難行動の課題と解決について検討した。

日時	対象地区	参加者
平成27年11月30日(月)	富海地域、向島地域	約30名
平成27年12月2日(水)	野島地域	約1名
平成27年12月3日(木)	勝間地域、華浦地域、牟礼地域	約31名
平成27年12月4日(金)	新田地域、中関地域	約35名
平成27年12月7日(月)	大道地域、右田地域	約36名
平成27年12月8日(火)	西浦地域、華城地域	約26名

成果

住民ワークショップで意見収集を行った避難目標地点、避難場所、避難経路、危険箇所を津波避難行動支援マップに掲載した。さらにワークショップでの避難行動の課題や解決について、必要な情報は、地域別津波避難計画に反映した。結果、各地域の実情に沿った実効性の高い「地域別津波避難計画」「地域別津波避難行動支援マップ」として取りまとめることができた。それぞれ単位自治会に配布し、防災訓練などに活用して頂く。この成果はワークショップの参加者だけのものではなく、地域住民等全員のものである。ワークショップの参加者が地域住民に防災意識（津波避難計画など）を伝え、地域住民が津波避難対策を考えることが重要になってくる。「地域別津波避難計画」「地域別津波避難行動支援マップ」の内容の啓発は市の出前講座でも対応が可能。

【担当部署の作業】防府市津波避難計画策定支援業務の受託業者と共同運営

- ・対象地区、スケジュールの決定
- ・自治会連合会との調整
- ・有識者の確保
- ・会場の確保
- ・ワークショップの資料作成→防府市津波避難計画策定支援業務の受託業者
- ・ファシリテーターの確保→防府市津波避難計画策定支援業務の受託業者と市職員
- ・自治会関係者協議
- ・周知（各自治会長あてに文書送付）
- ・参加者名簿の作成、班分け
- ・開催準備（付箋、マジック、大判用紙などの消耗品等の準備）
- ・意見の集約→防府市津波避難計画策定支援業務の受託業者

津波避難における課題と今後の取組み

1 避難行動の課題

富海地域の住民ワークショップにおいて、津波が到達するまでに安全な場所へ避難し、安全を確保するためには、以下のような課題が抽出されました。

(1) 避難場所の課題

- 海沿いの農地においては、避難場所まで距離があるため、最短津波到達時間までの避難が難しいことが想定されます。
- 海沿いの農地で作業している場合には、近くの高台や線路沿いの高い場所へ避難しなければならないことも想定されます。
- 避難場所で孤立した場合を想定し、食料などの備蓄が必要です。
- 観光客、釣り客など来訪者への避難場所の周知が必要です。

(2) 避難経路の課題

- 低地、橋、河川沿いの道、道幅の狭い道、踏み切りなどの危険箇所があり、避難経路の選定に注意する必要があります。
- 国道2号などの交通量が多い道路を横断する場合には注意を要します。
- 富海駅へ一時的に避難し、さらに高台へ避難する場合、富海駅には北へ通り抜けられる改札口がないため、迂回しなければなりません。
- 液状化などによって、道路の凸凹や段差等により避難速度が低下することが想定されます。
- 電柱の倒壊、ブロック塀の倒壊に注意を要します。
- 夜間の避難対策が必要です。
- 高齢者への避難誘導・支援が必要です。

(3) 地域の防災力向上のための課題

- 自主防災組織の活動の活発化が必要です。
- 夜間を想定した訓練が必要です。
- 地域において、要配慮者（避難行動要支援者）の避難対策の検討が必要です。
- 津波警報等の情報伝達方法の確保が必要です。
- 避難場所等で孤立した場合の連絡手段の確保が必要です。

2 課題の解決に向けた取組み

住民ワークショップ等で把握した地域の課題に対し、今後、対策の方向性や具体的な取組みについて継続して検討を行い、課題解決に取り組みます。

(1) 自助・共助を主体とした取組み

地区内の住民、自主防災組織、自治会が主体となって、自助・共助への取り組みを行い、防災意識を高めていきます。

- 避難場所の周知徹底
- 各自治会で一次避難場所の検討（一次避難場所に集合し、人員を確認した後、最終的な避難所へ避難する）
- 自主防災組織の積極的な活動
- 避難できそうな建物の所有者への協力依頼
- 避難訓練を実施し、避難経路、避難場所を確認
- 学校、保育園、介護施設などの要配慮者施設、地域団体等と連携した訓練の実施や連絡体制の構築
- 食料などの備蓄
- 要配慮者（避難行動要支援者）の把握と避難行動の支援

(2) 公助を主体とした取組み

自助・共助の取り組みに対するサポートや、公共事業による整備等において、地域の実情や要望事項等が反映されるよう、積極的に取り組み、地域の防災力向上に努めます。

- 自主防災組織への支援
- 海拔表示板の設置
- 避難路の整備
- 指定緊急避難場所等への物資の備蓄
- 津波情報等の情報伝達
- 津波避難行動支援マップの配布
- 防災行政無線屋外拡声子局の新設
- 避難誘導標識の設置
- 新規避難場所の指定
- 津波避難ビル等の検討